

令和6年度 東京都内湾水生生物調査 11月成魚調査速報

●実施状況

令和6年11月14日に成魚調査を実施した。調査当日は大潮で、干潮が9時31分、満潮が15時22分であった(気象庁のデータ)。調査当日の透明度は3.4~4.1mであった。いずれの地点においても赤潮は発生していなかった。

	St.35		St.25		St.22		St.10	
作業時刻	10:26-11:49		11:50-12:40		12:45-13:26		13:30-14:27	
水深(m)	24.6		14.3		14.6		8.9	
天候	曇り		曇り		曇り		曇り	
気温(°C)	18.2		18.2		18.8		19.3	
風向/ 風速(m/sec)	NNW/4.9		NNW/4.0		N/3.0		NNE/0.8	
波浪(m)	0.4		0.3		0.3		0.2	
透明度(m)	4.1		3.4		3.8		3.4	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(°C)	18.4	21.0	18.5	20.2	18.5	20.0	19.0	19.5
塩分(-)	29.8	33.3	27.9	32.5	30.4	32.3	30.8	31.7
DO(mg/L)	7.6	4.5	7.6	3.8	8.6	5.3	7.6	5.1
DO飽和度(%)	96.3	-	96.4	-	109.8	-	99.0	-
pH(-)	8.1	8.0	8.0	8.0	8.2	8.1	8.1	8.0
水の臭気	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
備考								

観測層:上層(0m)・下層(海底面上1m)。DO飽和度は上層のみ計測。

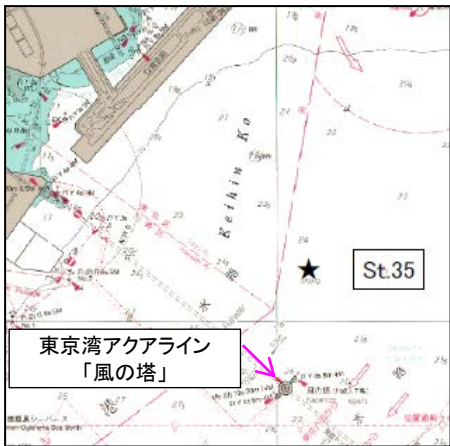
●主な出現種等 (速報なので、種名等は未確定です。)

主な出現種等	St.35	St.25	St.22	St.10
魚類	テンジクダイ(+) コモチジャコ(r)	テンジクダイ(+)	アカエイ(r)	シロギス(+) サツパ(+) ツバクロエイ(r) マアジ(r)
魚類以外 (目立った種)	多毛類(m) スナヒトデ(c) クシノハクモヒトデ(c)	多毛類(c) エビジャコ属(+) シャコ(+)	サルエビ(r) エビジャコ属(r) クシノハクモヒトデ(r)	ホンビノスガイ(+)
備考	シャコ、テナガゴブシ、ウミフクロウが確認された。	ウミイサゴムシ、クマエビ、スナヒトデ、ヤリイカ科等が確認された。	ロウソクエビ属が確認された。	

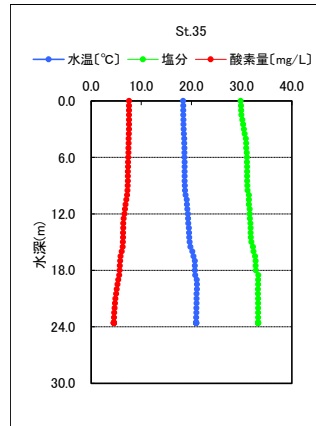
注)表中の()内の記号はだまかな個体数を表す。

G:1000個体以上、m:100~1000個体未満、c:20~100個体未満、+:5~20個体未満、r:5個体未満

調査地点：St. 35
調査地点位置



水質状況



地点状況



南側には東京湾アクアライン「風の塔」が見える。

採取試料



ウミウシの仲間。本州全域と九州に分布する。比較的深い海底から潮間帯の岩礁に生息し、アマモ帯の砂上にもしばしば見られる。肉食性で、他のウミウシ、甲殻類、イソギンチャク等やその死骸でも何でも食べる。日中は潜み、夜に活動する。

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



東京湾全域に出現し、特に湾奥に多い。砂泥底に生息して甲殻類等を食べる。繁殖期は 7 月から 10 月。親魚が卵を口の中にくわえて、ふ化するまで保護する習性を持つ。

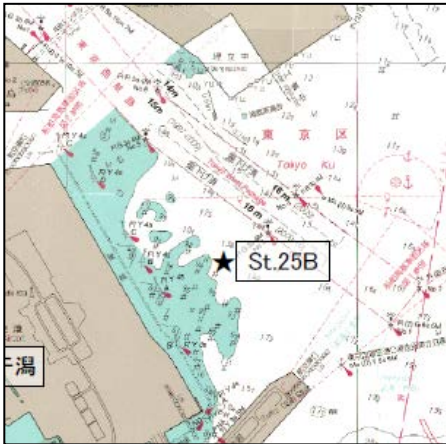


東京湾全域から出現記録があり、現在は主に湾奥に分布する。比較的深所の泥底から砂泥底に生息する。産卵期は春。

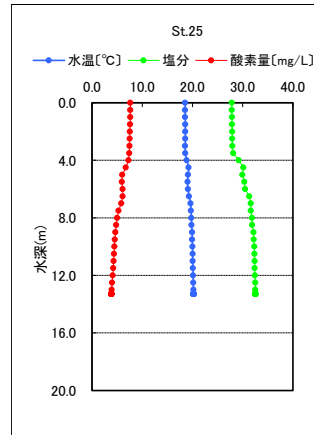


内湾の砂泥底に生息する大型のヒトデ。砂中の貝類等を捕食する。ヒトデの多くは先端が吸盤になっている管足を用いて移動するが、本種にはその吸盤が無く、砂泥上を滑るように移動する。通常は 5 本腕であるが、まれに腕の数が多き個体が出ることがある。

調査地点：St. 25
調査地点位置



水質状況

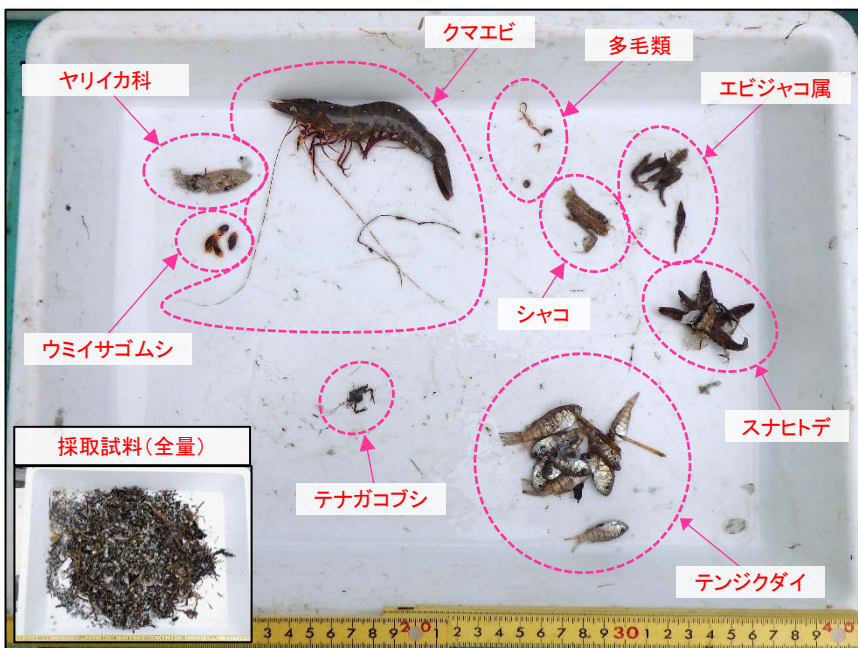


地点状況



西側には東京国際空港が見える。

採取試料



体長 20 cmを超える大型のクルマエビの仲間。房総半島以南に分布する。胸脚等が赤いことから、アジアアカとも呼ばれる。泥底を好み、稚エビはアマモ場で見られるが、成長するにつれ深場へと移動する。本調査では初めての確認となったが、東京都島しょ農林水産総合センターによる本年9月の調査※でも本地点近傍の羽田沖で出現している。

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



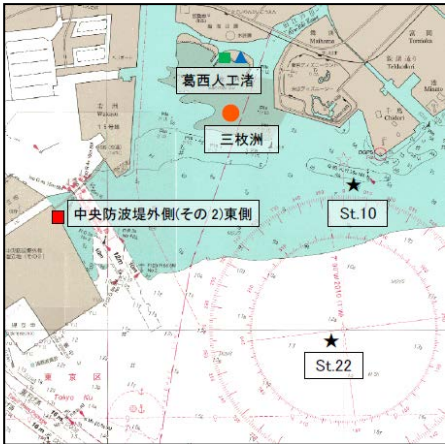
※解説は St.35 を参照。

河口の汽水域や内湾の砂泥底に、大小 1 対の口を持つ U 字形の巣穴を掘って生活する。東京湾では水深 15~30m に生息し、他の水生動物を強大な捕脚を用い捕食する。

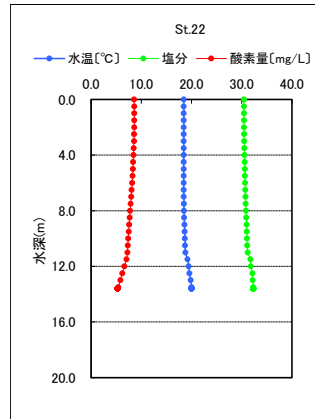
現在はヤリイカ科に統一されているが、以前はジンドウイカ科と呼ばれていた仲間。日本の沿岸域に広く生息する小型のイカ類で、ジンドウイカ・ケンサキイカ・ヒイカ等と呼称される近縁の数種があり、同定は難しい。

※東京都島しょ農林水産総合センター「東京湾便り 内湾調査令和 6 年 9 月 27 日 クルマじゃなくてクマエビ」
<https://www.ifarc.metro.tokyo.lg.jp/topics/tokyobay/20241108-094256.html>

調査地点：St. 22
調査地点位置



水質状況

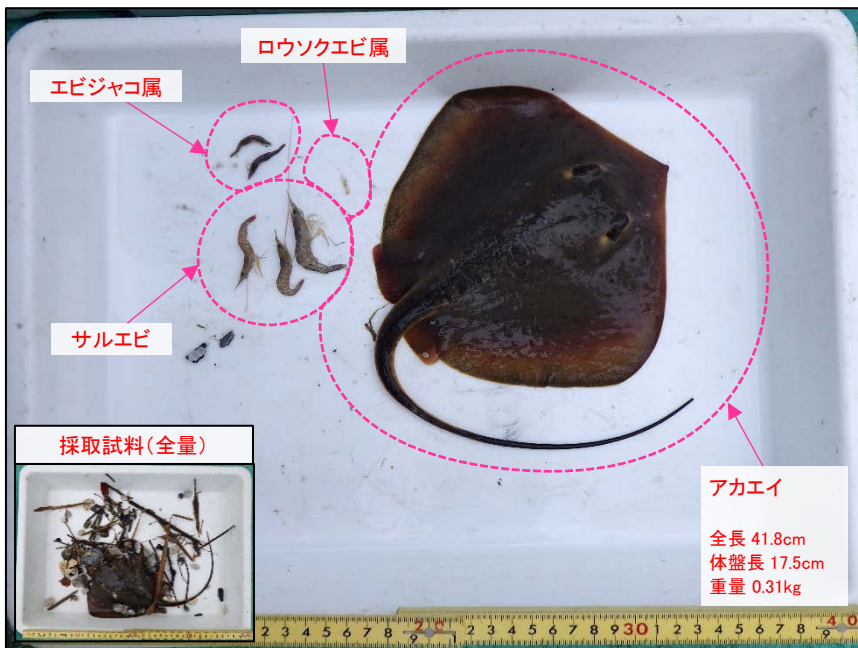


地点状況



北西側には東京ゲートブリッジがある。

採取試料



名前にヒトデとつく棘皮動物であるが、スナヒトデ等のいわゆる星型をしたヒトデ(海星綱)とは違う、蛇尾綱の仲間。砂泥底に生息し、クモのような動き方をする。硝酸素に強い耐性を持つ。

アカエイ
全長 41.8cm
体盤長 17.5cm
重量 0.31kg

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



東京湾で最も普通に見られるエイの仲間。甲殻類や多毛類等を食べる。尾部にノコギリ状の棘(毒針)を持ち、刺されると危険。



東京湾で最も普通に見られる小型のクルマエビの仲間。体表は細かい毛に覆われており、体長 10cm 前後になるが、オスの方がやや小さい。内湾の砂底から砂泥底に生息する。日中は砂に潜っており、夜間に活動する。7、8 月が産卵盛期。



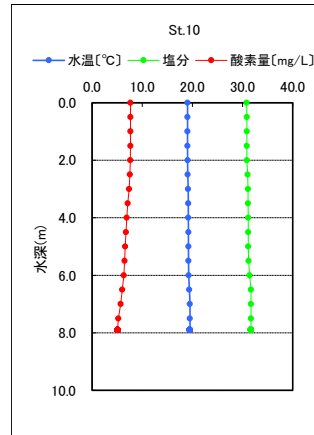
内湾の砂泥底に生息し、普段はごく浅く潜って隠れている。体色は周囲の環境に合わせて変化する。小さな体の割に獰猛で、稚魚等を捕食する。

調査地点：St.10

調査地点位置



水質状況

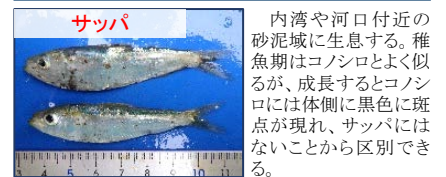


地点状況



北側には、東京ディズニーリゾートが見える。

採取試料



主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



東京湾全域から出現記録がある。砂泥底に生息する。胎生で、繁殖期は春。縞模様のある短めの尾には毒の棘があるがアカエイよりも小さく短い。ツバクロとはツバメのことで、幅広の体で泳ぐ姿がツバメに見えることからこの名が付いた。



東京湾では湾奥から外湾にかけての砂浜海岸等で多く見られる。水温が高い時期は浅場で過ごす、低くなってくると深所へと移動する。警戒心が強く、危険を感じると砂に潜る習性がある。産卵期は5月から10月。



重要な食用魚であり、底曳網やまき網等で漁獲される。東京湾では湾奥から外湾にかけての沿岸からやや沖の表層付近で普通に見られる。仔稚魚は小型の動物プランクトンを食べているが、成長するに従って魚食性が強くなる。